

心でつながる 手話



手話は日本語や英語などと同じ言語の一つ。手や顔の動きで会話します。今号では、聴覚障害のある方と手話通訳者の方に、手話や日常のことについて話を聞きました。

コミュニケーションを諦めないでほしい

当事者の声

誇りを持って手話を使っています

区でも手話言語条例が制定され、だんだんと障害者への理解が広がっているのを感じています。かつて手話の使用が制限されていた時代があり、街中で手話をしていると変な目で見られることもありました。時には「聴覚障害者と関わると病気がうつる」と言われ避けられることも。しかし今は、手話も言語の一つと認められ、社会全体に根付いてきた気がします。私は誇りを持って手話を使っています。

「もしかして聞こえないのかも」と考えて

私は耳が聞こえないため、後ろから声を掛けられても気付けません。しかし、それは見た目では分かりづらく、無視されたと思ったのか、後ろから強く押されたことがありました。そのようなことをされると危険ですし、とても悲しくなります。知らない人に声を掛けても反応がない時は、「聞

こえていないだけかもしれない」と考え、優しく肩をたたくなどしてくれるとうれしいです。

また、今はみなさんマスクをしているので口の動きが読み取れません。表情豊かに接してくれると感情が伝わり、分かりやすいです。

伝えようという思いがうれしい

聞こえないと分かった途端に逃げてしまわれて悲しい思いをしたこともあります。聴覚障害者とのコミュニケーション手段は手話以外にも、身ぶりや筆談などさまざま。コミュニケーションを諦めないでほしいんです。

先日、電車が事故で運転を見合わせてしまった際、電光掲示板が無く、なぜ止まっているのかが分からないことがありました。その時、若い女性がスマートフォンのメモで状況を教えてくれたんです。声を掛けてくれたことや私に伝えようと工夫してくれたことがとてもうれしかったです。さまざまな方法で誰もが当たり前コミュニケーションできる社会になってくれるといいですね。

Pick Up

中野区手話言語条例、中野区障害者の多様な意思疎通の促進に関する条例

昨年4月施行。手話が言語であるとの理解を広め、障害の有無によって分け隔てられることなく誰もが意思疎通できる環境整備を推進するものです。
☆条例の全文は、区HPでご覧になれます



区HP

障害のある方を理解しようとするのが大切

手話通訳者の声



遠藤寿子 さん

区内在住。区や都の登録手話通訳者。聴覚障害のある親戚がおり、手話に興味を持つ。企業内研修や就職面接での手話通訳など幅広い分野で活躍

聴覚障害のある方との交流の中で 楽しみながら学んだ手話

子育て中に区主催の手話講習会を知り、一時保育を利用して参加しました。

講習後の、聴覚障害のある方との交流はとても勉強になりました。聴覚障害のある方をもっと知るため、手話サークルや聴覚障害者団体の行事にも積極的に参加するように。楽しく学ぶうちに、手話通訳者を志すようになったんです。

「分かった」の言葉がやりがい

手話といっても地域やろう学校（聴覚障害のある方などが通う学校）によって表現の仕方が微妙に違うことがあるんです。そのため、相手がどのような手話を習得しているかによって、その方に合わせた対応を心掛けています。

聴覚障害のある方に「よく分かりました」と言ってもらえた時や私の通訳でみなさんがスムーズに会話できた時は達成感もひとしお。会話を通してその方への最適な表現を模索する過程に新しい発見がたくさんあり、やりがいを感じます。

手話ができなくてもできる配慮がある

高齢や病気などで失聴した方は手話ができない方がほとんど。どなたでもできる配慮として、筆談や空書きといった方法は効果的です。

私は手話を覚えるだけでなく、障害のある方を理解しようとするのが大切だし本質だと思うんです。向かい合って身ぶりや表情で伝わるように意識する。そして、手話ができなくても筆談や口の動きなどで何とか伝えてみる。「伝えたい」という気持ちが大切かもしれませんね。

手話で あいさつ

日常生活でよく使うあいさつを紹介。みなさんも手話を使ってみませんか。
☆利き手が左の方は左右が反転します

こんにちは



首を少し傾け、顔の横に手を置きます。笑顔も忘れずに

ありがとう



①左手を平行にし、右手を乗せます
②右手を胸の前に引き上げます

お疲れ様でした



左手を平行にし、右手で作った拳で2回トントンたたきます

もっと詳しく学びたい方は

手話を使って交流できる

中野区手話サークルだるま会

中野区手話サークルだるま会
✉ jokatu@bf.wakwak.com
☎・FAX (5380) 3330
☆電話は火曜日午後1時～5時のみ

区内在住・在勤・在学の方が対象。区内の聴覚障害者団体と連携し、学習や交流をしています。
☆年会費は2,000円。詳しくは、だるま会へお問い合わせを

企業研修や町会の催しに

中野区聴覚障害者福祉協会の出前講座

中野区聴覚障害者福祉協会
☆連絡先は左記の中野区手話サークルだるま会と同じ

区内の学校や企業、町会などに講師を派遣します。聴覚障害のある方がどのように生活しているかや簡単な手話などを学びませんか。
まずは電子メールまたはファクスで、気軽に相談を。

意思疎通のさまざまな方法が分かる

「手話言語及び障害者のコミュニケーション展」

障害者施策推進係 / 1階
☎ (3228) 8832 FAX (3228) 5660

音声を文字にするタブレットなど、意思疎通を円滑に行うためのさまざまな機器や方法を紹介します。
日時 9月21日(火)・22日(水) 午前9時～正午
会場 区役所1階区民ホール ☆当日直接会場へ



米内山昭枝 さん

区内在住。中野区聴覚障害者福祉協会理事。生まれつき耳が聞こえず、両親も聴覚障害者。生まれてからずっと手話で育った

プチ情報

筆談は漢字のまま

聴覚障害者は目で見えた情報を基に生活しているため、字の形や意味は知っていても読み方を知らないことがあります。漢字で書いた方が伝わりやすいんです。

